

英語リーディング教材を利用した教養力を高める試み

1. はじめに

筒井(2012)は読売新聞の2012年2月6日朝刊の「論点スペシャル 問われる大学の価値」の中で1991年の大学設置基準の改正(一般に「大綱化」と呼ばれている)以降、教養教育軽視と専門主義・実用主義偏重が始まったことが現在の大学が抱える3つの大きな問題の1つであると、指摘している。現在の大学英语教育においてもこの傾向が顕著であり、TOEICの得点増を主眼とするカリキュラムやESPプログラムが主流になりつつある。従ってかつての英語教育が担っていた教養教育的側面が等閑視されるようになってきている。この証左の一つとして、古典的名文や文学教材が使用されなくなってきた事を挙げることができる。仲正(2008)は、教養の本質を「知的な討論をするための基礎的な能力」と定義しているが、この知的な基礎能力を養成するための有用なツールの一つが読書であることは異論の無い所であろう。発表者は英語の名文を収録したリーディング教材を使用しておこなった授業で、名文の著者の好きな作品を読んでレポートとして提出する課題をかした。今回の発表ではこの課題が教養力を高める上でどのような効果があったか報告したい。

2. 使用したテキスト

テキストは研究社から2009年に刊行した『名文で養う英語精読力』を使用した。このテキストは難度の高い英文を正確に読みこなせる精読力を、parsing(構文分析)の技法を身に付けることによって習得させることを狙いとするものである。また文学作品を多く取り入れたのは、文学作品を読むことによって養われた文学的素養が、「それを身につけた人の人となりを作っていく重要な要素」になり、文学作品を読むことで身に付けた英語が「のちのち教養として輝きを放つような英語の基礎となる」斎藤(2009)ことを願ったことからきている。

3. 参加者

参加者は2011年度に担当した関西地区の共学の私立大学の学生175名と女子大学の学生93名の計268名と今年度担当した共学の大学の学生27名の総計295名である。共学の学生は文系と理系の1回生から7回生まで広範におよぶ。女子大学の学生は理系と文系の1回生である。

4. テキストに収録した著者と作品

14人の著者から2つの文章を抜粋した。以下に著者名と作品名を記す。1. George Orwell. *Animal Farm* 2. Elisabeth Kubler-Ross. *On Death and Dying* 3. O.

Henry. *A Retrieved Reformation* 4. George Gissing. *The Private Papers of Henry Ryecroft* 5. Ernest Hemingway. *The Old Man and the Sea* 6. Rachel Carson *Silent Spring* 7. William Wilkie Collins. *Family Secret* 8. Henry David Thoreau. *Walden* 9. . William Somerset Maugham. *The Summing Up / A Writer's Notebook* 10. . Arthur Waley . *The Tale of Genji* 11. William Henry Davis. *The Autobiography of a Super-Tram* 12. Winston Churchill. *My Early Life* 13. William James. *The Varieties of Religious Experience* 14. Robert Lynd. *Afternoon Tea*

5. レポート課題とその結果の考察

上記のテキストに収録されている著者の中で最も関心を持った著者の作品の一つを取り上げ、感銘を受けた点をA4で2枚以上で論じさせるレポートを課題としてかした。原書での読書は難しいので、翻訳で読むことも認めた。以下に結果の考察を記す。

1. Hemingway の『老人と海』と Carson の『沈黙の春』の人气が高かった。『老人と海』は老人のストイシズムと不撓不屈の精神を高く評価する意見が多かった。カーソンを多くの学生が取り上げたのは、彼女の自伝が高校の教科書で扱われていることも一因となっているように思われる。2. 短編の名手 O. Henry, 推理小説の始祖 Wilkie Collins のようにストーリーの面白さ、巧みさで読ませる小説の人气も高かった。この二人の小説をもっと読んでみたいと書いていた学生も多くいた。3. *The Private Papers of Henry Ryecroft*, *Walden*, *On Death and Dying*, 『純粋経験の哲学』のような深い思索に裏付けられたエッセーに取り組んだ学生のレポートは、いずれも読みごたえのあるものであった。4. 今回の課題レポートで普段読む機会のない名文や小説を読むことができ良かった記載していた学生も多くいた。

6. まとめ

1. 今回の課題レポートで、翻訳とはいえ学生に名著を読む機会を与えることができたので、学生が教養を深める一助となったと考えられる。2. 近年菅原(2011)や鳥飼(2011)によって精読力養成の重要性が唱道されるようになってきたが、今回の名文のアンソロジーのテキストの指導で、このテキストが精読力や文法力を鍛える上で効果のある題材であることが判明した。3. 授業及びレポートを読んで小説が学生にとって人気のあるリーディング教材であることを実感した。

